



Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press-release

① 5月15日：

2008年世界情報社会・電気通信日の式典が開催される
World Telecommunication and Information Society
Day 2008
障害を持った人々をつなぐことに焦点を当てる
Focus on Connecting Persons with Disabilities
ITUはアクセシビリティの増強に取り組む
ITU takes steps to enhance accessibility
(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2008/13.html)

今年の世界情報社会・電気通信日は、障害を持つ人々をICT技術によって提供された機会につなぐことに焦点を当てた。世界の障害を持つ人々は6億5000万、その家族を含めると20億人に上り、これは世界の人口の3分の1になる。

ITU事務総局長のDr. Hamadoun Toureは、この日の式典で「過去25年にわたる驚異的なICTの成長は、社会で積極的に役割を担う障害を持つ人々に力を与える新技術の創出を見た。ICTは、彼らの能力を強力に支援し、彼らに力を与え、夢や希望を実現させ、彼らを情報化社会で積極的に活動する一員にする」と述べた。

記念式典でのITU World Telecommunication and Information Society Awardの表彰

Toure事務総局長から3名（1団体と2個人）にITU World Telecommunication and Information Society Awardが贈られた。

Mrs Suzanne Mubarak（エジプト大統領夫人）

Suzanne Mubarak Women's International Peace Movementの創立者で理事長。ITUとWHOが開催した最初の地域会議の成果である障害者のためのICTサービスへのアクセス支援に関するカイロ宣言の実施を支援した。

DAISY (Digital Access Information System) Consortium

世界40以上の国々の図書館やICT企業で組織された団体。ANSI/NISO Z39.86-2005として知られる公開の非商標登録

の標準を促進させ、識字障害者の情報や知識へのアクセスを可能にし更に広く一般までも裨益する国際標準と技術に関する開発と促進を目的とする。

Ms Andrea Saks

障害者の標準を促進しITUの様々なアクセシビリティ行事の実施に貢献した。現在、Internet Governance ForumのDynamic Coalition on Accessibility and Disabilityのコーディネーターを務める。

② 5月15日：

ITUテレコムアフリカ成功裏に閉幕
Doors close on successful ITU Telecom Africa 2008
2010年テレコムアメリカ開催決定
Windows open on Americas 2010
(出典：www.itu.int/newsroom/press_releases/2008/14.html)

2008年5月15日、エジプト・カイロでのテレコムアフリカ閉幕後、ITU事務総局長Hamadoun Toureはテレコムアメリカを2010年にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催すると発表した。テレコムアメリカには、アルゼンチンのほか、ブラジル、メキシコ、ベネズエラも開催の意向を表明していたが、インフラ、宿泊設備、会議・展示施設等の整備状況に加え、アルゼンチン政府の支援内容並びにテレコムボードからの推薦もあり今回の決定となった。2010年は、アルゼンチンの独立200周年記念の年にも当たっている。開催期間は、2010年3月1～4日、開催場所はLa Rural Predio Ferial de Buenos Aires（屋内施設4万5000㎡と屋外に1万㎡のグラウンドがある）を予定している。

同日閉幕したテレコムアフリカ2008には、37か国から191の出展者、92か国から大臣、政府高官、CEO（120名）など308名のVIP、79名のユースフォーラム参加者を含む747名のフォーラム参加者、24か国から436名の報道関係者など合計6,706名が参加した。フォーラムでは、Thuraya社CEO、マイクロソフト社アフリカ・中東チェアマン、エジプトNational Telecommunication Institute Directorなど199名が講演し、アルカテルルーセント、Alkan CIT、Arabsat、Ericsson、



ERTU、Etisat、Huawei Technologies、KT、Nokia Siemens Networksなどが展示を行った。

③ 5月16日：

ミャンマーを襲ったサイクロンNargisによる被災者を電気通信で再接続

Myanmar cyclone Nargis victims re-connected via telecommunications

ITUが衛星通信ターミナルを配備

ITU deploys satellite terminals

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2008/15.html)

5月2日にミャンマーを襲ったサイクロンNargisはヤンゴンやイラワジデルタの低地に甚大な被害をもたらしたが、ITUは被災直後の通信回線を復旧するため100の衛星通信ターミナルを同地域に配備した。

通信回線の復旧で、政府担当者や人道支援団体による災害復旧作業が容易になった。可搬型ターミナルは陸路や空路で容易に運搬でき、人道支援業者や災害の被災者に利用された。

Posts and Telecommunications Department のDirector General Mr. Tin Htweは、「サイクロンNargisによる被害の甚大さから、ITUが支援を申し出てくれたことに我々は心から歓迎する」と述べた。

④ 5月22日：

ITU地震被害を受けた中国に衛星通信端末を供与

ITU deploys satellite terminals in quake-hit China

復旧活動用通信回線を回復

Restoring telecommunication links vital in rehabilitation effort

(出典：www.itu.int/newsroom/press_releases/2008/16.html)

ITUは、2008年5月12日に中国で起きた大地震によって影響を受けた通信手段回復の一助とするため、衛星通信端末100台を供与することとした。これにより、政府並びに救援機関関係者は救援活動をより効果的に進めることができるようになる。今回ITUが供与した衛星電話端末は、Thurayaが提供したもので、衛星網とGSM網とで利用可能でGPS機能も付いており、車や航空機等で簡単に被災地に持ち込むことが可能である。被災地までの搬送はFedExが担当した。

ITU Framework for Cooperation in Emergencies (IFCE)

IFCEは、インマルサット、イリジウム、Thuraya、ICOグローバルコミュニケーションズ、Vizada、TerreStar Global、FedExからの資金、機材提供から成り立っており、Thurayaは2006年に衛星端末を50台提供していたが、今回新たに100台を追加提供した。